
無題

喜一

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

無題

【Nコード】

N46760

【作者名】

喜一

【あらすじ】

まだ確定してないので
未設定です（・ω・、）

無題

迅速に、足音を立てず。

木々が生い茂る森の中を、闇雲に、ひたすら走る。

耳をすまして、静まり返った森には、自分の息づかいしか聞こえない。

空には満月が見えていた。

しかし、分厚い雲が月の輪郭をぼやかしているためか、辺りは漆黒の闇に包まれている。

体にまとわりつく闇に、身動きがとれない。諦めよう。怪我をした足は、もう、動かない。既に血は固まっているものの、止血せず走り続けた結果、血を流し過ぎた。

立ち止まり、木の幹に寄り掛かる。

何時間も走っているが、一向に着かない。

このまま走っていても、着くかどうかさえ分からない。それなら、早々に諦めようか。痛みだけならまだしも、絶え間なく襲ってくる眠気に、瞼を閉じる。

弾に何か塗っていたのか：

躊躇せず俺に向かって発砲した男は、嬉しそうに笑っていた。

そして、俺が倒れたのを見て、興味を無くしたように他の的を探していた。

ざりつと、無意識に奥歯を噛み締める。

このまま眠ってしまおう。そうすれば、楽になれるかもしれない。ずるずるとしゃがみ込み、木に体重をかける。投げ出すように伸ばした左足は、既に感覚がなくなっている。

走りつづけたためか、空気がうまく吸い込めない。沢山吸い込もうとすればするほど、目眩にも似た感覚が襲い、空気を求めて空を仰ぐ。

不意に、遠くから声が聞こえてきた。それと同時に銃声が聞こえる。

無意識に全身に力がこもり、立ち上がっていた。思わず苦笑をもらす。

いざ心を決めても、所詮は死にたくないんだ。

ここにいたまもうとすればするほど、目眩にも似た感覚が襲い、空気を求めて空を仰ぐ。

不意に、遠くから声が聞こえてきた。それと同時に銃声が聞こえる。無意識に全身に力がこもり、立ち上がっていた。思わず苦笑をもらす。

いざ心を決めても、所詮は死にたくないんだ。

ここにいたら確実に捕まる。どうせ捕まるのなら、最後まで足掻いてやる。

簡単になんか捕まってやらない。

深く息を吸い込む。澄んだ空気を肺に流し込み、目の前の闇を見据えた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4676o/>

無題

2010年10月23日17時46分発行